

日時 平成28年2月25日（木）午後2時30分～4時00分

場所 新城市役所 政策会議室

1 開会（14：30～）

2 会長あいさつ

3 議事

【承認事項】

- ・第2回総合計画審議会の議事録署名者について

【事務局説明】

前回、この審議会での議論を円滑に進めていくために、市民部会において議論を行い、ある程度まとめていくということ。そして、その議論の内容やまとめたことについて報告書という形でご報告させていただくことで、委員皆様の情報共有を図ろうということでありました。報告書の内容等につきましては、その都度事務局にご意見をお寄せいただき、市民部会にも反映させていくということで、これまで進めてまいりました。12月1日、12月21日、1月15日と計3回市民部会を開催し、延べ9時間にわたる検討をしていただきました。本日は、市民部会でまとめていただいた内容とさらにご意見等をいただきながら、第2次総合計画策定に向けての現在の基本構想のまとめをお願いしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

【市民部会報告】

全体で言いますと、第1次総合計画から第2次総合計画に移っていくに当たって、どのような方向に持っていったらいいのかということですが、今までのことを踏襲するのか、あるいは方向の転換をしていくのかということですが、市民部会としましては今までの方向性でステップアップしていくという方向が良いのではないかというのが大勢でありました。ただし、それにつきましてはこの計画に基づいて今まで行われてきました事業の成果をきちんと評価し、問題点や改善点を踏まえていかなければならないということでした。また、計画に基づいて行われた良かった点、ステップアップしていこうというものは重点として計画に反映していくべきではないかという意見もありました。

○会長

第1回から第3回までの報告書があり、結果についてという4ページほどにまとめた資料があります。基本的には、これについてみなさんのご意見をいただけたらと思います。他の市民部会の委員さんからもせっかくなので、補足や自分なりのご意見をいただけたらと思いますので、順番にお願いします。

○委員

これまでの反省ということで会議の中でもよく出てきたわけですが、PDCAということで計画して実施したことをチェックする、振り返ってみてそれを基にしてアクションを起こしていくということになると思うのですが、チェックのところがしっかりできて

いるのかどうかという意見が出てきまして、私もその辺はあまりできていないところもあるのかなという印象を受けました。

人口問題につきましてありましたけれども、5万人というのはどうも難しい状況であるので、具体的な施策がないままそのまま持つていくのも難しいかなということで、人口問題については時間を割いて多くの意見が出されました。

○委員

末端の市民まで分かり易い計画をたてて訴えていくような資料をつくらないと浸透していかないのではないかとということで、色々と考えていました。関心の無い人は、いくら良いものをつくって訴えかけても、目にすることもきっとないだろうし、関心を持って聞く耳も持っていないだろうと思ひ、やはり末端の人まで浸透していくというのは、文章や絵や図だけではなく、完成した計画をいかに伝えていくかという宣伝力によって決まってくるのではないかと思ひました。易しく書くというだけの問題ではないと思ひました。

○委員

人口のこと、子どものこと、市の構想のことなどが計画にあり、自分に興味があることは見る気にもなりますが、そうではないものは自分の目に飛び込んでこないということがすごくわかったので、市の総合計画は若者でも目を引くような冊子にでもしてもらえたらいいのかなと思ひました。

○委員

地理的に、今まで愛知県という枠組みの中で考えていたものが、新東名ができたことや三遠南信も出来ることから、新城を中心に静岡や浜松との動きが見えるような印象を出した方が良いという発言をさせていただきました。典型的なのは、第1次総合計画では愛知県の図が入っていたのですが、そうではなくて静岡くらいまで入ったものにした方が良いのではないかとということです。地域の構造的なところでもう少し立体的なものを出していった方が良いのではないかと思ひます。

○委員

市民部会の役割としての答申に向けての話し合いというのがスムーズに行われたと思ひています。ここにまとめられた結果というのが総意ある形として受け取っていただければ良いと思ひます。私自身の意見としては、総合計画に対して市の職員の仕事は、緻密にされていると感じています。問題は実行していく部分と作られた仕組みというものが使いきれていないということが市民側にもあると思ひるので、いわゆる市民レベルというものがもう少し上がってくる方が動きやすくなるのではないかと思ひます。計画の啓蒙であるとか、リーダーシップをとる人がどんどん出てくる、若しくは教育するということが重要ではないかと思ひました。全ての計画についてはバランスよく新城市のことを考えてつくられたことに変わりはないと思ひますので、それをしっかりと実行することができることが市としての成長につながると感じました。

○会長

ありがとうございました。ここからは審議会として、新たな総合計画を策定するに向けてこうあってほしいというような答申をするために審議会としてのまとめをする作業になります。そういう観点から市民部会がまとめた検討結果について、ご質問やご意見、あるいはここに書かれていない新たな視点と申しますか、こういうことが次の総合計画に入れていく必要があるというようなご意見も含めていただきたいと思います。市民部会の委員の方も部会を離れて、一審議会委員としてご意見をいただいても構いません。

○委員

確かに分かりにくいなという印象はあると思います。イメージとしましては、色々なものが盛り込まれ過ぎている感じを受けるのが分かりにくいのだと思う。色々なことを考えなければならないということはあると思いますが、もっと一つの方向に向かえるような何か、例えば新東名であるとか一つのキーワードから色々な施策が派生していくように考えた方がわかりやすいのかなと思いました。ある程度絞った中で関連づけてつながりをつけていくほうがわかりやすい感じはしました。

○会長

この意見として重要だと思しますので、今度計画をつくるときの一つの注意点として入れていくということをお願いします。

○委員

PDCA についてですが、具体的な中身をどうしていくかというところを、どのように市民にわかりやすく伝えていけば良いのかなというところを考えました。動く側として、その具体策と行動力というものが大切になってくるなど考えておりました。

○委員

今回は、市民部会の皆様に短い間の中で中身の濃い議論をしていただいて、結果としても私も同意する内容だなと思って議事録を見させていただいた。その中で、この審議会がそれをどこまで具体化していくのかというのが分からないところがあって、確かにわかりやすい表現にした方が良いし、資料でも分かり易い図を使うこともそうですし、人口の設定も5万人で良いのかということも出てきましたが、では実際にこの審議会で何人にするかと詰めていくのか、行政側で詰めていくのか、そのあたりが良く分からない。そういうことをここで検討するのかどうかを最初に教えていただいた方がよいのかなと思いました。

○会長

わかりました。その点については事務局からお願いします。

○事務局

平成27年度の審議会につきましては、そこまで具体的なことを問うものではないと考えております。実際には平成28年度から第2次総合計画の策定がスタートしますので、市民と市役所が一緒につくっていくという過程の中で案の形が徐々に見えてくるものだと思いますので、その段階で最終的なご意見を審議会に伺うということになってこようかと考えております。今年度につきましては、大きな方向性というところで、第1次総合計画から第2次総合計画に向けてのご意見として答申という形でまとめたいただきたいと思います。

○委員

そういうことであれば、市民部会で出てきた検討結果で良いと思います。細かいところはありますが、大筋というところでは特にありません。

○委員

構想とか計画は、机上や会議の上では非常に良いものが出来ると思っていますが、それを具体的にどう進めていくかというところが一番大事であると思います。構想や計画を進めていくには、PRが大切だと思います。実際に市の計画を知らない方がほとんどで、興味を持って「ほのか」を読んでいても、知らないことがたくさんあります。どうやってみなさんに伝えていったら良いのか。自分の中でも、もやもやしているところがあります。市民に知られていないことをPRできるようにしていただきたいと思います。それと、新東名ができてびっくりしたことは、皆さん通り過ぎっていつてしまわれるのかと思ったら、結構、人も車も新城に集まってきているなということを実感しています。

ので、新東名に関することでも構想や計画に入れていけたら良いかと思います。

○会長

計画をどのように実行していくかということ、それから細かな一つひとつを市民が理解するのは大変かもしれないが、行政側が如何にして市民に理解していただくか、その知ってもらうための取り組みの工夫をし、知っていただくことが徐々にでも市民のまちづくりに対する意識が変わっていくことにつながっていくと思います。

○委員

総合計画は市町村合併後にこれからどうしていこうかということで作られたものだと思いますが、そこでつくられたキャッチコピーが山湊馬浪だったと思うんです。計画としては、市民と行政が協働で一緒になってやっていこうということ。それは合併をしたことにより行政組織を縮小していかなければならない、経済的にも難しいということからの方向性であったと思います。市町村合併の不安やとまどいという時期は過ぎたと思いますので、今までやってきたことを踏まえて、これから何をメインにしていくのか、方向性のところをもう少しやっていただいて答申に反映していった方が良いと思いました。

○会長

とても大事な話をしていただきました。今の話は、検討結果の中の2枚目の計画策定の新たな視点というところです。事務局、もともと新たな視点とはどのような内容でしたか。

○事務局

第1次総合計画の新たな視点とは「新たな公共」「みんなで使う」「行政経営」という3つの視点です。

○会長

今のお話は、一つは平成17年に合併し、新しい市が誕生したということが一つの前提になっていたが、これからは次の新しい段階に入っていくということであるから、第1章の市町村合併による新都市の誕生というところは、今とは違う表現になってくると思います。2番目の社会情勢の変化と新しい地方自治への展望、ここに新たな公共というところが関わっている。3番目の新都市の特性と地政的役割では、特性として新東名ができたことで状況が変わってきているということがあると思いますので、そういったことを踏まえて第2次総合計画はつくっていく必要があるということです。市民協働という考え方については、次の総合計画にどう反映させていくか。今日、結論を出すということでもないと思いますので、今日は色々な意見をいただき、今日の意見を事務局にまとめていただいて、次の3月の審議会を確認をするという段取りでいきたいと思いません。

○委員

基本構想ですので大きな方向性を出すという、新都市がどこに重点ポイントを置いて進んでいくのか、人口の減少や流出を防いで、市民の方が安心して暮らせるまちづくりを、そこに新東名ができたことで人の流れができていくのはチャンスだと思います。基本構想の中には今後の方向性としては、行政レベルで横の繋がりを持って連携して、地域住民のニーズを聞いて問題解決をしていくというシステムに変わっていった欲しいと思っています。どこにポイントを置くかということもありますが、住みやすい新城、子育てし易い、子どもにも障がい者にも、高齢者にもやさしい施策が横断的に考えられていくシステムがあって、一つでも、小さい地域でもわかるような計画になっていくと良いと思います。

○会長

ありがとうございます。行政の縦割りの弊害をなくすように。これは行政経営の中の話かもしれません。

○委員

皆さんの話にも、まとめにも書いてありますように、分かり易い総合計画、冊子を作っていたきたい。新東名の開通、三遠南信ができてきまして、東三河でも人の流れがだいぶ変わってきているのではないかと思います。また今後も変わってくると思いますので、それを踏まえて構想を考えていった方が良いと思います。

○委員

まずもって、市民部会の委員の皆さんは大変な作業で、きめ細かく真面目に考えていただき、感謝申し上げたい。これが無駄にならないように頑張ってもらいたいと思います。やっぱり実現しなくてはいけない。夢を持って楽しむだけではなく、実現する喜びを味わわなくてはならない。行政の世界は竹刀で行う剣道と一緒に、痛いだけで終わってしまう。切られたら、血が出て死ぬというくらいの覚悟を。大事なことは計画を立てたらその進捗状況をチェックしなければならない。チェックして、必ず結果を出さなければならない。出なかったら何故出なかったのか。半年ごと、3か月、早ければ毎月、進捗状況を見ていく。行政はそこまではいかないかもしれませんが、ものづくりの立場ではお客さんからのクレームにも対応していく。大量の不良品を出して大損をするということもある。実業の世界では痛い思いをしてきていますから、チェックするということは大切さを感じる。行政ですからそういうことは仕方がないわけで、どうやったらできるか、どうしたら良いのかを考える。できない理由を考えない。それが大事ななと思います。

○会長

実現できる計画ということで、チェックのことは何人かの方がされていました。実現できるという意味ではやはり総花的であっても仕方がない。ある程度絞りこんだ計画にしていくというのも一つの方向性だと思います。

○委員

将来的なことを見据えて計画していくというのは難しく、みなさんが言ったことを、職員が実行できることが第一だと思います。税収が上がってくれば色々できるかもしれないが、まずは30年先を見て色々計画をしていくと良いかなと思います。そんなことを思いながら、私も一委員として後押しできれば良いかなと思います。幸い新城市にもインターができて、豊橋の人に聞くと羨ましいということをよく聞きます。インター開通に伴う周辺の開発というのはぜひやらなければならないと思います。少しでも経済効果が高まるようになることが私の夢であり、実行したいことでもあります。

○会長

新城インターが開通してまだ2週間ちょっとで、これからその影響が新城としてどうなのか、具体的なデータはまだ出てこないかもしれないが、ぜひ市としてデータ収集をしっかりと取っていただいて、第2次総合計画のバックデータとしてほしいと思います。

○委員

新東名の効果はものすごくあります。間違いなく。それから20年経つと空の時代が来ます。奥三河は夏にエアコンがいらなから、インターの近くでそんな場所はないので、こんな住みやすいところはないですから東京や大阪からすぐに来るようになる。そういう時代が来ます。それから何年後かにはリニアができる。飯田に止まりまから、三遠南信道でここから飯田まで1時間もかからないようになりますから、羨ま

しがられていますよ、新城市は。放っておいても良くなると。

○会長

中山間地域の移住の条件の一つには、やっぱり都市部からのアクセスが良いということがありまして、1時間程度で行きたいところに都市部に行けるというのは非常に重要で、新城の山の中というのは、その意味で非常に魅力的になってくると思います。それらを上手く利用していかなければいけません。

○委員

新たな公共ということで地域自治区制度ができて3年が経とうとしています。目標を達成したかと言えば、今は活発にやっていますので、達成した内に入るかもしれないですが、まだまだ発展途上ですので、これからもっと盛り上がっていくという点からいくと、一つのものに絞って基本構想をとるよりも、多面的なものがあつての新たな公共を一つ加えておいて、10年間の取り組みを維持していくということも大変ですので、維持もあり発展もありということで、これから更なる発展をしていくという形にしていかなければいけないかなと思います。

○委員

多面的にということだと、それを全部やっていかなければならないということになります。全部をやっけていきながら、それを個々が全部高めていくということが本当に可能なのかということを検証しなければいけないと思います。今の計画が全部で一体いくら掛かるのかということですが、果たしてその体力が新城市にあるのか。全部を進めていって中途半端になってしまうと意味のない結果になってしまうかもしれないので、そこがどうなのかということが気になるところです。

○委員

同じ一線に並べることのできない内容ばかりだと思いますが、市役所にはそれぞれの分野で分かれていると思うので、それぞれが力を発揮していくという感じでいくと、目標が一つ大きなものを掲げたとしても、それぞれの分野でそれぞれの分野のことに力を入れていかななくてはならないということがあるので、考え方の違いなだけであるような気がします。

○委員

先ほどおっしゃられた、放っておいても良くなるというのはあるような気がしていて、この基本構想にある中でも、結果としてついてくるものとそうでないものがあると思います。例えば、インターができて人の流れが良くなって、新城に来てもらえる人が増えるとして、そういう人に新城のことをPRできる何かがあると、もう一回来たいとか、住んでみたいとか、そういうことがあると人口も勝手に増えていくような気もするし、そのようなつながりがあるのではないかという気がしています。全部が全部をバラバラに各分野でやるのはどうなのかなと思っています。

○委員

新城がよそにないものとしては、アウトドアスポーツです。これは豊橋ではできないことです。豊橋でラリーをやってくださいと言ってもできない。新城は様々なアウトドアスポーツの全国大会をやっている。今までは交通の便が悪かったのであまり人も来なかったが、これでインターができたので、今まで4万5千人だったのが7万人、10万人来るかもしれない。いずれは本宮山スカイラインを使って世界大会をやろうという構想もある。トヨタの社長が自ら出ると言っていて練習をしに来て、社長自らが現場を見に来ている。額田に4000人規模のテストコースができ、その人たちの住宅をどうするかという話もある。ひょっとしたら新城に目をつけるかもしれないと言っていたので、ぜ

ひ目をつけてくださいと社長に頼んだ。新城出身のグループ会社の役員もいます。デンソーやアイシンなどそういう人脈を上手く使って新城のために何ができるか。

○委員

基本構想ですから、読む方は色々な方が読まれるわけで、障がい者の方であれば市は自分たちにどのようにしてくれるのか、子育て世代の方であれば教育はどのようになっていくのかと思うだろうし、年寄りであれば今後新城でどのようにやっていけるだろうかと思うわけです。そうすると、皆さんが色々と抱えている問題や現状をある程度総花的に載せておかなければならないと思います。それが第1次総合計画ではどのようにつくられていたかということ、山の湊ということで、賑わいを持ちつつ、皆さんが安心して暮らしていける、それから行政と市民が手を携えて協働してやっていくという方向を打ち出したわけです。この計画そのものは良くできていると私は思います。次の第2次をどうするかということでは、これから発展していくためのメインはどうするかというのは、全体的なことを見るのとはちょっと別次元で、別建ての考え方で良いのではないかと思います。鉄道や新しい道ができると今までの歴史をたどると、人が流出していった歴史だった。今回、新東名ができて本当に人が来るようになってくれるのかどうか、それは観光客なのか、それとも定住してくれるのか、そうではなくて出て行ってしまふのかというのは、しばらく様子を見ないとわからない。もっと寂れてくるのかもしれないし。「市民がつなぐ山の湊創造都市」というのは、市民がつなぐというのは地域自治区構想や協働のことを言っていると思う。山の湊は、観光客や物流あるいは企業誘致などのことを言っている。そういうことを創造していく都市になろうという目標だったと思う。それを第2次ではどういう風に発展させて、どこに力を入れていくのか。放っておいて良くなっていけば良いですが、みなさん、ご自分の立場では随分と御苦労なさってやってきたからこそ今がありがたいなと思います。どんな事業でも放っておいても良くなるなんていうのは、よほどのバブル景気でなければいけないと思いますけど、どうなんでしょうか。審議会では、そういう方向性を決めることができるのではないかとということを密かに期待しています。

○会長

ありがとうございます。今回は、基本構想をどうするかという議論であり、来年から策定するのはその基本構想です。基本計画になると、それぞれ福祉、医療、産業、教育など個々の分野の方針と具体的な事業の計画が出てくるとは思います。基本構想は、もっと大きな方向性を示すものです。だから今のご意見は、大きな方向性としてどういう方向性か、あるいは方向性を考える上での基本は、ベースになるものは何かということです。新たな公共や協働ということであるのか、あるいは今後の新都市の位置づけであるとか、そういったところがこれからの新都市を考えていく上でのベースになるようなものをしっかりとまずは固めて、それを基に具体的に将来像を示し、それに向けてどうやっていきますというのが基本構想になります。今年度の審議会では、第一次の基本構想を踏まえて、改善すべきところは改善する。今日出ましたのは、実現できないのは意味がない、チェック機能も含めてしっかりやらないと意味がないということ、総花的という側面も見えるので、もうちょっとしぼり込んだものではないかならないのではないかと。総花的というのは、実は今の基本構想の中では重点プロジェクトということで、7番目の項目で基本戦略の柱となる市の重点プロジェクトという、市民自治社会創造プロジェクト、自立創造プロジェクト、安全安心の暮らし創造プロジェクト、環境首都創造プロジェクトの4つを重点的に取り組みますということになっています。もちろんそれがちゃんと実施できたかということはチェックする必要はありま

すが、基本構想のつくり方として、どこに次の10年間、あるいは15年間で重点を置いてやるのかということも、当然示していくということになるということです。今回は3月末ということになっていきますので、そのときには今年度議論した第2次総合計画基本構想の策定に向けた答申をまとめたいと思っていますが、今日が実質的には皆さんの意見を踏まえてまとめていくということになります。

○委員

市民部会も含めて、何度か勉強させてもらった中で、基本構想の環境首都創造について話題に出来なかったかなと思います。環境をお金に換えて良く時代ということになると思うのですが、あまりエネルギーとかそうことに限定せずに、環境という言葉在先ほどもありましたように、標高が高い所に住めば夏は涼しいとか、そういうことを含めて環境をお金に換えていくという意味の環境首都という枠組みで議論し、基本構想の一つのコンセプトとして形が出てきたら良いかなと思いました。それを誰が支えていくのかという時に、交流人口であったり、住民であったりという話なんですけれども、そういう人がどういう風に関わるのかと言ったときに、市民自治や新たな公共といったように、そういう絡みの中での環境首都というキーワードが出てきたら良いかなと思います。

○会長

新城の一番の資源は自然環境でありますので、そういう意味で環境ということですから。これまでも新城は環境ということで色々な取り組みをしてきていますね。

○委員

他の市町村の人から見るとは、新城と言えれば環境都市だねと聞くことも多いです。自分たちはあまり意識していないですが。

○会長

今の環境の話は、今日は出ていなかったのですが、事務局は記録として入れておいてください。

○委員

地域協議会の話ですが、地域自治区制度ができて3年目になります。計画策定の新たな視点が3つあるというところで新たな公共というのは、今までは市民側は行政に任せてやらせてもらえばいいということだったと思うのですが、市民自治社会という言葉を使っていますが、我々住民が主体となって問題を解決していく、そのための主体となるのが地域協議会になります。今まで市役所にお任せしていた財源を地域自治区予算や地域活動交付金という形で、住民が主体となって自分たちでやろうという、他にはあまりないことをやっていると思います。地域自治区制度を3年やってきまして、全ての地区がうまくいっているとは言いきれませんが、うまくいきそうだという雰囲気です。先ほど多様性ということがありましたが、地域自治区制度から見る多様性とはちょっと違うかなと感じました。地域自治区は市内10地区あり、新城市民はそのどれかに属しています。その辺のところも次の基本構想には入れていったら良いと思います。

○会長

地域自治区制度がうまくいっているところ、いないところがあるかもしれないが、制度を維持して、さらに地域自治の力を付けていく方向ですね。

○委員

市としても、地域自治区の仕組みをもう少し策定した方が良いと思います。地域任せと言いますか。市の職員も中に入って話をしているとは思いますが、あまり個人的な意見を集めて市政をしてしまうと絶対に多角的になります。あれもしたい、これもしたいという意見がたくさん出て、結局、議論の流れは夢と現実のバランスが崩れて、行政

対市民という構図ができあがってしまったりするので、3年やってきた中の検証をしっかりと、できているところをモデルケースとしたり、市民の中で手綱さばきをしっかりとできるようなリーダーをたてて、しっかりした関係をつくってというようなことが仕組み化されていくともっと強くなってくると思います。完全に自由になり過ぎる状態が今3年目ということだとちょっと長い気がするので、ここから制度に修正をかけたりにして、地域が組織として力が発揮できるチームをつくるというところを見据えていくべきではないかと思います。

○会長

では、その辺のところは大事なところですので、事務局の方でしっかりとまとめてください。その他これだけは言っておきたいということはあるですか。よろしいですか。それでは、今日は色々な意見が出ましたので、もちろん市民部会の検討結果がベースになり、プラス今日出た意見を踏まえて事務局の方でまとめていただきたいと思います。それで、次の審議会の予定が3月31日。市長に対する答申案を検討したいと思います。できれば、その場で案が問題なければ承認をいただいて、最後に市長に答申できたらと思います。事前に案をまとめて委員の皆さんにはお送りして、少しフィードバックできるようなことを考えてください。事務局、よろしいですか。

○事務局

はい、その辺ですが、今日のご議論を加えたものをまとめた中で、答申書としての案をまとめていきたいと思っております。3月の前半でもう一度市民部会の方にお集まりいただいて、まとめたものから答申案としてある程度固めていただく作業をして、その結果を委員の皆様にお送りしたいと思います。それを読んでいただいて、事前にご意見があれば事務局にご連絡いただきたいと思っておりますし、3月31日に最終的に確認していただいて、承認という形に持っていきけるような流れで行きたいと思っております。

○会長

わかりました。では、3月31日には基本的にみなさんに同意いただいた答申案が出てくると思います。この1か月の間、市民部会にやっていただいて、それを皆さんに見ていただいて、最後にまとめるということをお願いします。はい、それでは本日の予定は以上となります。ご協力ありがとうございました。

～16:00 終了